

2010年11月16日

内容：J.P.Brand 小学校の訪問、AnamStrat 村での！Nara フルーツの収穫と利用方法の調査、Rooibank のダムを観察、WalvisBay でベンゲラ海流の観察

講師：Sebedeus 氏（Gobabeb のガイド）、水野一晴先生

キーワード：教育・乾燥地域・植生・生業・寒流

要約

16日は以下の4点を中心に調査をした。1点目はJ.P.Brand 小学校を訪問し、どのような教育が行われているかを調査すること、2点目はTopnaar のAnamStrat 村を訪ね！Nara フルーツの収穫と利用方法についての調査を行うこと、3点目はRooibank のダム周辺を観察し、ダムができたことによって！Nara フィールドの植生や住民たちの生業にどのような変化がおきたかを学ぶこと、4点目はWalvisBay でベンゲラ海流の観察を行うことである。以下、4点に分けて16日のサマリーを報告する。なお、この日から翌日までGobabeb のガイドであるSebedeus さんが同行し解説をする。

[J.P.Brand 小学校訪問、7:30～9:00]

WalvisBay から東に52km の場所にあるJ.P.Brand 小学校を訪問。Grade2/3/4 の各クラスを見学させてもらった後に、校長先生に質疑を行う。

ここでは町がある訳ではなく、沙漠の中の小学校でGrade1（6歳）～Grade7（13歳）までの289人の生徒が全寮制で学んでいる。卒業後はそれぞれ別の町に移動しGrade8を



を行う。いろいろな場所から生徒が集まるため、授業は英語でなされる。どのクラスも1週間（月～金、7時15分～13時15分、30分授業×8コマ）で主要な科目はアフリカーンス語9コマ、英語9コマ、数学9コマ、環境教育5コマなどである。学年によって多少カリキュラムは変更する。学校の横には診療所がついていて、簡単な診察はそこで行うことができる。水疱瘡などが多いということである。（写真：Grade3の授業風景。）

[AnamStrat でのインタビュー、9:30～12:30]

小学校から数キロ東に行った場所にあるTopnaar の村（AnamStrat）を訪問。13家族あるこの村で、！Nara の実から種を取り出す方法、！Nara チョコレートの製造法、庭で育てている作物、ドンキーカーなどについて学生各自でインタビューによる調査を行う。

Bennie（40歳、コミュニティーガーデンの長を務めている）という男性を中心に2～3

人の男性からの話によると、この村は伝統的に！Nara と漁業の二つの生業により成り立っており、村の生業・生活は！Nara そのものであると語っていた。

この事は翌日（11月17日）に行われた永原陽子先生の「ナミビアの歴史について」の講義の中で、19世紀半ばの Rooibank（Kuisseb 川下流域）の人々が、！Nara の果実と漁業により豊かな食料資源をもっていたということが歴史資料から紹介され、Topnaar の語り と歴史資料の両方から、村人たちが沙漠の！Nara の採集と、海の漁業によりなりたっている（いた）ことが確認できる。

そのように村の生活が！Nara と切り離せない事を語った上で、Kuisseb 川に数年ごとにおきる洪水が！Nara の果実を流してしまい、収穫を不安定にさせること、上流にダムができることによって、将来は今までよりも多くの！Nara の実がとれるようになるであろうという事を Bennie は語った。（写真：！Nara の種を乾燥させる作業。その後 WalvisBay の市場へ売られる。）



[Rooibank のダムを観察、12:50~13:30]

Rooibank のダムを観察。水野一晴先生の解説により、1961年にできたダムの影響で、水が及ばなくなった支流と、今までよりも水が行きわたるようになった支流を比較し、植生の変化を学ぶ。

このダムは10年に一回ほどの割合でおきる WalvisBay への洪水を防ぐためにつくられたものである。洪水が来ると一時的に表面の砂や植物は剥ぎ取られる。しかし、洪水は新しい種子と水とミネラル物質を運ぶため、次世代の植生の育成を助ける役目を持つ。！Nara の植生にとっても同様であり、ダムによって洪水時に水が行かなくなった支流では、新しい世代の！Nara が育たなくなり、Topnaar の地域住民にも大きな影響を与えている。！Nara の植生が変化したことにより、テリトリーをめぐる折衝、他の地域から侵入してきて！Nara を大量にとっていく者などがでてきて、問題となっている。（写真：中央にあるのがコンクリートで仕切られた堰。堰の建設後、写真右側には水が行き渡らなく植生が変化した。）



¹宣教師である CarlHugoHahn が19世紀半ばの Rooibank（Kuisseb 川下流域）の様子を記述した *Tagebuecher1837-1860* 中に当時の様子が詳細に書かれていると講義で紹介された。ちなみに Bennie によれば、AnamStrat の村人が漁業をするために働いていた会社は数年前につぶれたという。

[WalvisBay のベンゲラ海流を観察、15:00～16:00]

WalvisBay に寄り昼食をとりながら、寒流について水野一晴先生より説明を受ける。WalvisBay はナミビアの海岸沿いを南から北に流れるベンゲラ海流の影響により、一年を通じて非常に涼しい。非常に温度の低い寒流であるため、上昇気流がおきにくい。しかしこの寒流は海上で霧を多く発生させ、それがナミブ沙漠にまで運ばれる。降水量は少ないが、霧が多く発生するというナミブ沙漠



独特の気候をつくりあげているのがこの寒流である。数え切れないほどのフラミンゴが藻を食べるなか、その冷気を体感した。(写真：大西洋のベンゲラ海流とフラミンゴ。)

(報告者：二ツ山達朗)